

議会だより

第 45号

平成30年 6月 1日 発行



議会日誌

平成30年 1月～ 3月

- | | |
|--|--|
| 1月 2日 成人式 | 2月 26日 議会運営委員会
全員協議会 |
| 3日 出初式 | 28日 第1回紀宝町議会定例会・1日目 |
| 15日 三重県町村議会議長会理事会（津市） | 3月 8日 矢渕中学校卒業式 |
| 26日 玉城町議会議員視察研修 | 11日 第12回社協つれもてまつり |
| 29日 熊野・南郡正副議長会（熊野市） | 12日 第1回紀宝町議会定例会・2日目 |
| 2月 1日 三重県町村議会議長会県外視察（佐賀県有田町）
（2日まで） | 13日 第1回紀宝町議会定例会・3日目 |
| 4日 第4回元気で！浅里なれ寿し祭り
紀宝町ボランティア市民活動センター設立10周年記念式 | 14日 第1回紀宝町議会定例会・4日目 |
| 5日 川越町議会議員視察研修 | 16日 鶴殿小学校卒業式 |
| 6日 議会運営委員会 | 17日 三重県自衛隊入隊入校予定者激励会（津市） |
| 13日 明和町議会議員視察研修 | 18日 一般国道168号五條新宮道路辻堂バイパス開通式
（奈良県五條市） |
| 15日 三重県町村議会議長会理事会（津市） | 23日 うどの幼稚園卒業式
南牟婁郡交通安全対策協議会（御浜町） |
| 18日 第11回美し国三重市町対抗駅伝大会（伊勢市） | 26日 熊野・南郡正副議長会（熊野市）
紀南介護保険広域連合議会（熊野市） |
| 19日 三重県後期高齢者医療広域連合議会定例会（津市） | 27日 地方創生まちづくり特別委員会 |
| 20日 近畿自動車道紀勢線建設特別委員会 | |
| 26日 紀南環境衛生施設事務組合議会定例会（新宮市） | |

3月定例会

一般質問

(要約)

新宮紀宝道路



向井 健雅 議員

・4期目の約束について

議員

本年1月28日に執行された町長選挙において、4期目の約束という公約の中で、見事4期目の当選をされました。改めて、お祝いを申し上げます。おめでとうございます。4期目の約束ということで、公約を掲げられ町長選に臨んだわけでございますが、その約束事は5つございました。その中の2点になるんですが、質問をさせていただきます。新宮紀宝道路の進捗については。

産業基盤整備担当理事

2月15日現在の契約状況としましては、250筆中、106筆で42%の取得と伺っております。

議員

残りの買収の予定は。

産業基盤整備担当理事

29・30年度の2か年を予定しております。

議員

町有地、代替地の状況は。

産業基盤整備担当理事

町が用意してございます代替地につきましては47区画あ

教育、子育て

議員

ゼロ歳児保育の来年度の予定は。

健康福祉担当理事

30年度からは受け入れを5

図書館整備

議員

図書館に行くアクセスとしましては、全体的に見て非常に狭く、大変厳しい交通状況になっていきますので、他の場所に移転してはどうか。

教育課長

今後、複合的な拠点としての整備手法や運営方法につきまして、場所等も含めて調査・研究を行い、幅広いご意見を拝聴するなかで検討を進めてまいりたいというふうを考えております。

人に拡大してまいりたいと考えております。

議員

次に保育時間の体制についてなんですが、お子さんをお持ちの親御さんが何時から何時までを希望するような、アンケート等をとってみては。

健康福祉担当理事

現在、働き方が多様化しておりますので、そこをしっかりと捉まえながら保育サービスに結びつけていくということが非常に大事だと思っております。

小学校、中学校の現状と統廃合

議員

小学校、中学校の現状についてをお尋ねいたします。

教育長

町内小・中学校7校の児童数・生徒数の現状でございますが、本年3月1日現在の小学校児童数は、井田118名、成川64名、神内67名、相野谷50名、鶴殿243名で、児童数合計542名となっております。中学校につきましては、相野谷25名、矢測249名で、生徒数合計274名という状況でございます。子どもたちの豊かな成長を支えていく、地域とともにある学



校コミュニティスクールを目指して取り組みを進めておるところでございます。

議員

小学校において、複式でされている学年は。

教育長

相野谷では、4・5年生が複式でございます。

議員

子どもの教育という観点から、複式でされるというのはレベルの低下につながると考えます。そこで統廃合という問題になってきますが、中学校も合わせて、この先、統廃合を考えていかなければならないと思うわけですが、いかがですか。

教育長

今後、児童生徒数の推移等の状況を見ながら、学校教育の直接の受益者である生徒や保護者の皆様の声を聞き、教育的な観点と地域コミュニティの核としての役割を考慮したうえで、町内小中学校の今後のあり方について、継続的に慎重に議論を進めていきたいと、このように考えております。

議員

現在、相野谷中学校では25

名ですが、中学校の統廃合については早急に考えなければいけない時期かと考えますが、町長の考え方は。

町長

学校等の統廃合の問題につきましては、現在の少子化の状況の中において、本町にとっても年々出生者数が減少してございます。状況をしっかりと勘案するなかで、これから10年先を見通して、いろいろ議論をしていくことが大事でございます。地域や学校、そして保護者の皆さんと十分議論しながら、今後、よりよい方向に進めて行ければと思っています。

議員

教育長、あるいは町長のほうで、しっかりと今後検討して、子どもを一番に考えていただきたいと思います。最後に、マスコミの社説の中で地域間競争に勝ち残るためには、一層踏み込んだ政策に取り組む必要があると書かれておりましたが、私自身はですね、近隣の市町以上に一歩進んだことを政策で示していると思います。甘んじることなく、これからも頑張ってください。



原 章三 議員

・嘱託職員、非常勤職員の処遇改善について
・南海トラフ等の巨大地震における復旧復興について
他

嘱託職員の処遇改善

議員

嘱託職員労組の紀宝町ユニオンとの団体交渉をこれまで何回か持たれてきたが、町長は交渉の場に一度も出席されておられません。住民さんとの要望等においては出席されており、憲法では団体交渉権、団結権が保障されており、労働組合との団体交渉に、なぜ町長は出席しないのか。

町長

今後いろいろな吟味し精査する中で、しっかりと答えを出していく体制で取り組んでまいりたいと思っております。

議員

今年4月から雇用ルールが有期雇用から無期雇用でスタートすることになっているが、地方公務員である嘱託職員の場合、地公法第3条の関係から任用期間は一年以内となっております。紀宝町についても同様である。嘱託職員、非常勤の方が安心して働ける職場づくりを行い、任用期間を撤廃すべきであると思うが。

総務担当理事

更新につきましては本人の申し出がない限り、毎年更新の手続きをしております。今後要綱に沿って行っていくたいと思っております。

議員

嘱託職員さんの昇給は29年度給料表によると25万3千円で昇給ストップとなっており、また各種手当、人事院勧告についても、正職員同様に4月に遡って支給すべきではないか。

総務担当理事

昇級ストップにつきましては今後改善を検討し、また差額精算についても協議検討してまいりたいと考えております。

議員

紀宝町では現在5か所の保育所で293人の園児を預かっているが、保育士さんのほうは正職員13人で、うち園長5人を除いた、実質8人と嘱託職員15人、非常勤24人で保育運営を行われています。明らかに、これでは正職員が少なすぎるのではないのか。もつと増やすべきではないか。

総務担当理事

今後とも住民ニーズや職員の年齢バランス等を検討し、また職員管理上必要な場合は新規採用を実施していきたいと考えております。

巨大地震等における 復旧復興計画

議員

東北大震災の避難者が現在7万3千人と、今なお避難生活が余儀なくされ、復興期間の延長を求める声がある。

相次いでいます。そういった中で、事前に復興計画を立てておくことが重要だと言われていますが、町としては事前の復興計画をどのように進めているのか。

特別参与

地震津波等については町民防災会議において、各地域において、学習や取り組みと等計画を立てて行きたいと思っています。

議員

ライフラインにおいては、特に配水管や送水管等の確保が重要であることから、非常時に飲料水が確保できない地域についてはどのように考えているのか。

政策担当理事

水道水が確保できない地域につきましては、御船排水池や浄水場で相当の量が蓄積されており、町が購入しました給水車等で対応を考えております。

新宮紀宝道路

議員

計画の現ルートについては、住民が望んで今の道路

計画ができたかといえば、これは多くの方が疑問に思っているところです。また移転を余儀なくされる人も出てくるわけです。町としても家賃補助や町営住宅を建設し、従来のような地域コミュニティが図れるような対策を町独自で行うべきではないか。

産業基盤整備担当理事

地域コミュニティにつきましては、代替地の区画整備や造成などで取り組みをさせていただいております。また町営住宅につきましても、今のところ考えておりません。

議員

移転していただく方や周辺の人たちに、きめ細やかな血の通った手立てを要望します。次に、工法については盛土ではなく、高架橋方式の方がベターではないか。

政策担当理事

工法につきましては専門機関である国において決定されました。地盤調査も含めた結果、このような工法になった以上、町としてもそのように理解しております。

学校施設関係 の冷房化

議員

この問題については深刻な状況にあります。子どもたちに適正な学ぶ環境を提供することは、教育に携わるものであれば当然のことであると思いますが、どのように考えているのか。

教育課長

学校関係の空調化につきましては、町内各小中学校の関係者からご意見をいただきながら、空調整備計画等を作成し、計画的に事業を進めてまいりたいと思っております。

また総合教育会議におきまして、町長からも冷房設備の設置を推進していく発言を受けておりますので、現在、協議・検討を進めているところでございます。

国保税の減免

議員

18歳未満の子供が3人以上いる世帯の場合、一般サラリーマンが加入している保険に



については、その保険料に変動はないが、国保では保険税が大変高くなります。この矛盾した制度を改善し、第3子以降の均等割りの部分を所得制限なしで全額免除することを求めます。

住民サービス担当理事

国民健康保険加入者世帯の皆様につきましては、国保税条例に沿ったご負担をお願いして、国民健康保険財政を支えていただき、また一方では各種の福祉施策において、子育て支援を図ってまいりたいと思います。

※この他に「福祉医療費の窓口負担の無料化について」「国保一元化について」の質問がありました。



塩野 真 議員

・一次産業の後継者不足
による課題と今後の方
策について

一次産業の 後継者不足等

議員

なぜ後継者が不足すると思
われますか。

産業建設課参事

一次産業は自然環境の変化
に大きく影響を受け、収入が
安定しないことや重労働など
マイナスなイメージが多くあ
ります。また、後継者となる
若い世代が就職等で町外へ転
出していくことなどが大きな
要因であると考えます。

議員

一次産業のマイナスイメ
ージを払拭していかなくて
は、後継者として若い世代が
興味を持つことは難しいと
思います。良いイメージだけ
発信するのではなく、どのく
らい仕事や生活がきついの
かという正確な情報も発信
していかなければならない
と思います。そこで、必然的
な経費である家賃や光熱費
等を支援する策を考え、紀宝
町で一次産業に従事した場
合の具体的なライフモデル
を提案して発信できると良
いと思います。

マイナス面よりも自然の中
で子育てが出来る、社会の人
間関係を少し離れて穏やかな
生活が出来るということに価
値を感じる人もいるでしょ
うし、この先、その部分が非常
に大事になってくると私は考
えます。

後継者不足の問題はいろん
な立場でいろんな取り組みが
あると思いますが、「昔とは
違う」という考えで取り組ん
で欲しいと思います。昔はこ
うだったと言われても、高度
経済成長の時代の話しを出さ
れたところで解決できませ

ん。打ち出の小槌のような施
策は無いと思います。出来る
ことから着実にやっていくこ
とが、時間はかかりますが、
意外に近道なのかもしれません。

地元で採れた食べ物、生き
ものの命を頂く、それに対す
る感謝の気持ちを持ち、地域
の歴史や背景を知ることが、
地域への愛着が生まれ育つと
言われております。とても大
切な事だと私も思いますし、
学校給食における食育がまさ
にスタートではないかと考え
ます。現在の取り組みをまず
再確認して、食育の価値を考
えることが大事だと思います。

教育課長

地産地消の取り組みは、児
童・生徒一人ひとりの食に
関する気付きに繋がり、地元
愛を育むことにも一定の効果
があると考えます。

今後給食運営委員会にお
きまして、学校給食の改善の
協議を行い、栄養教諭とも連
携しながら、児童生徒への食
育を推進してまいりたいと考
えています。

産業建設課参事

教育委員会と連携し、食育

も含めたなかで一次産業への
理解を深めていただけるよう
な農林漁業体験などを検討し
ていきたいと考えておりま
す。

議員

三重県にあるモクモクフ
アームの方が、農業や食に意
識を持つ人を増やし、農村文
化を残していくことが農業
者、地域の役割であるとおっ
しゃっています。さらに、食
育は農業振興や地域活性化
の一つの手段であり、食育を
通じて地域の農業や生産者
を応援してくださる消費者
の方を一人でも多く増やす
こと、それが日本の農業を守
る唯一の手段である。その
ための地域の役割は儲ける
事が先ではなく、やるべき役
割を地道に実行することだ
であると。私もその通りだと思
います。

地域の取り組みは、ヒット
商品を作って、売ればすぐ
にネットや東京へ、という話
しになりがちです。今の時代
ヒット商品を生み出すのに、
1年半という時間と相当な経
費がかかると言われていま
す。しかも2年を待たずにそ
の半数が売れなくなると言わ

れています。

1970年代とか80年代で
は8割の商品が生き残りまし
た。今は作れば売れる時代と
は違います。どういふところ
に価値を見いだしていくの
か。それは、仲間と一緒に商
品を作る時間や、地域や社会
と繋がりを感じられる商品を
開発することではないかと言
われています。

移住定住促進においても、
やりたいことができる、だけ
ではなく、人との繋がりを感
じられる、誰かの役に立つな
どストーリーをプラスするこ
とで、田舎暮らしの本当の価
値が見えてくると思います。

そこで大切になってくるの
が、地域で魅力のある人を育
ていくことです。その人と
一緒に何かをしたい。その人
のもとで何かを学びたい、そ
う思わせるような人材、時間
はかかりますが、ここをまず
やらなければならないと思い
ます。

この町は、目立ったところ
もないと感じられる方もいる
かもしれませんが。しかし何も
ないということは逆に紀宝町
に来れば何でも出来る、とい
うイメージを売りにできるチ

ヤンスではないかなと思います。「何でも出来る町、紀宝町」と知恵を絞って発信して欲しいと思います。後継者不足の問題は、町だけでなんとか出来る問題ではありません。町は町としての役割を、しっかりと担えばいいと思いますが、いかがですか。

町長

町としましては、小規模利子補給や新規事業商店に対して開店するための助成など、いろんな形で取り組みを行っております。そういった制度を活用して頂き、しっかりと支援をしていくことが大事であると思っております。

産業建設課参事

行政としましては、地域住民や企業の方にアイデア・ノウハウなどの知恵を出して頂き、実現できるためのサポート役を担うべきであると考えております。また、行政が全てのプランを策定し実行するのではなく、行政としての役割、地域や企業が役割を分担しながら、情報を共有し連携していくことによって相乗効果が生まれ、魅力ある一次産業の構築に繋がっていくと考えております。



莊司 健 議員

・観光基盤の強化について
・各集会所等運営の実情について
・鮎田地区、消防車庫建替及び消防車更新について

観光基盤強化

議員

町長諸報告の中で、魅力あふれる強い観光地域づくり、外国人観光客等の受け皿づくりに努めるとありますが、取り組みの効果は。

企画調整課長

現在、取り組みの2年目を迎えたところですが、成果といえるところまでは至っておりません。今後、目的の達成に向け、努めてまいりたいと考えております。

議員

全国から評価を受けているタイムライン視察に、各市町から紀宝町のほうに来られてますが、取り組みの経過や今後の進むべき方向、そして平成23年紀伊半島大水害においての経験等を語るような取り組みを、直売交流拠点施設で出来ませんか。

特別参与

当町で研修を行っていた際に、現地の方へ回っていただきますと、研修会場より興味を持っていたいており、ありますことから、今後、有効な場所になるのではないかと考えております。

議員

浅里を拠点として、町内各地の体験メニューを整え、観光マップを整備してはどうか。

企画調整課長

町の観光資源には、世界遺産をはじめ、魅力的なものが沢山あります。単一の観光資源に複合的に組み合わせることで、更なる付加価値を高めたいと思います。現在はマップの内容を検討している段階で、浅里の里山体験等を書いたものを折り込みして

いきたいと考えております。

議員

現在、大里の京城の調査が進められ、文化財指定を目指していますが、なかなか1か所では人を呼べません。中世の城や名のある滝、景観のよい山、暖地性のシダ、それから都市部で人気のコケ、井内のホテル、浅里の猪垣などを整備していけば、一つのよい目玉になるのではないかと考えます。そこで、長期的な視点で明確に観光を打ち出すには担当部署を設置することが必要ではないか。

町長

議員ご提案いただいた部分は、紀宝町の誇れる自然、また歴史文化だというふうに思っております。観光地域づくりとして、それぞれの目的に応じて、各課で事業に取り組みんでいるところでございます。今後は必要に応じて専門部署の設置なども検討してまいりたいと考えております。

集会所運営

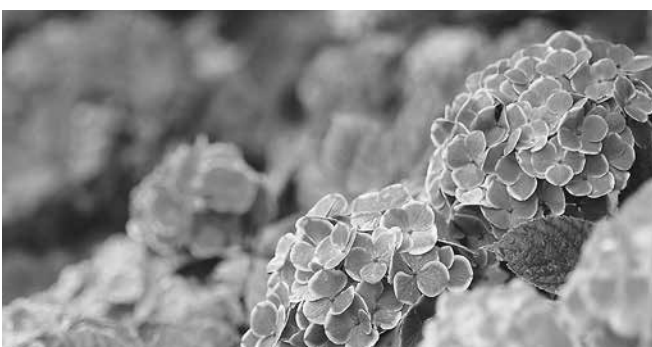
議員

収支についてはどうです

か。

総務担当理事

各集会所から収支決算書をご提出いただいております。町内には合わせて19施設ございますが、建物などの維持修繕費や浄化槽設備、消防設備の保守管理費用を町で負担しております。28年度では施設利用料収入だけで運営できているのは1施設となっており、残りの18施設につきましては、前年度からの繰越金や区などからの補填によりまして、運営されている状況であります。



太陽光発電パネル

議員

過疎高齢化が急速に進む中、各地区では運営費の捻出に、皆さん大変苦勞してると思います。また防犯灯の電気代等も大変大きな負担となっています。受益者負担は当然ですが、指定管理者の要望もよく聞き、支援を増やせるところはお願いします。次に、高岡防災センターの太陽光発電パネルの設置についてですが、被災時の停電も考慮すると、太陽光発電設備の設置はいかがですか。

特別参与

太陽光発電パネルの設置や施設の維持管理につきましては、他の集会施設との状況も勘案しながら、検討を進めていきたいと思っております。

議員

地区からの要望で、高岡防災センターの裏側斜面の草刈りが大変危険であるため、コンクリート吹付等をしてはどうか。

特別参与

各地区、山間部の地域等からも同様のご要望をいただいておりますので、他の集会施設の状況も勘案しながら検討してまいります。

議員

鮎田構造改善センターが避難施設となっていますが、二次避難について不安の声もあります。増水時、集落内の道路が寸断され県道も通行不能になることから、この現状を踏まえ、地元との調整は。

特別参与

鮎田地区のタイムラインを策定する場において、議員ご指摘のとおり、避難方法について色々とご意見を頂いております。タイムラインによる防災対応としましては、早め早めに対応を行って頂くということが第一であり、現在、計画を策定していただいたところであります。また地区内の避難場所におきましても、鮎田構造改善センターが避難場所になっておりますが、タイムラインを策定する席上において、牛鼻神社社務所も案として使用させていただく計画になっております。

消防車庫及び消防車

議員

次に鮎田地区の消防団員から、今の車庫が増水状況の把握にも有利な場所であるという意見があります。そこで車庫を2階建てにして、2階は避難施設にしてはとの意見もありますので、調整を進めていただきたい。

特別参与

鮎田班の消防車庫の建て替えにつきましては、団員の待機場所やトイレも現状の建物では有しないことから、建て替える必要性は十分に認識しております。今後は、現状での整備が良いのかどうかを本年度の消防団の役員会において相談をさせていただきたいと思っております。

議員

次に、消防車のエアコンがないため、窓が曇って危険という意見がありますので、良い環境を整えるためにも前向きにお願いしたいと思います。

特別参与

消防車は鮎田班だけでなく、他の班の車輛も購入後年数が非常に経過している状況でもございます。財政的に見ても非常に難しく、現車輛へのエアコンの整備については、車輛に合うエアコンが生産中止されており、エアコンの設置はできないとの判断で

ございます。しかし、今後の消防団の体制も考慮しつつ財政当局にも相談をするなかで、団員の皆様ができるだけ早く快適な環境において安全に活動していただけるよう、環境整備に取り組んでまいります。

でございます。しかし、今後の消防団の体制も考慮しつつ財政当局にも相談をするなかで、団員の皆様ができるだけ早く快適な環境において安全に活動していただけるよう、環境整備に取り組んでまいります。





萩野 進也 議員

・地方創生拠点整備
交付金事業

浅里飛雪の 滝キャンプ場

議員

地方創生拠点整備交付金事業、浅里飛雪の滝キャンプ場は、どのような体制で運営しているのですか。

住民サービス担当理事

当初は指定管理者を募り、運営等を実施していく方向で検討を行ってまいりましたが、熟慮を重ねた結果、当分の間は町の直営として、管理運営を行っていくことといたしました。3年先を目途に、

指定管理者の公募ができるよう進めてまいりたいと考えております。

議員

3年後、5年後の収支見込みについて、どのように予測されていますか。

住民サービス担当理事

3年後、5年後の収支の見込みにつきましては、1年間稼動した段階で検証を行い、目標を設定してまいりたいと考えております。

議員

売上目標は設定していますか。

住民サービス担当理事

平成30年度につきましては、コテージの使用料、また体験メニューなどの参加費を含めまして400万3千円というふうに設定させていただいております。

議員

経営については少なくとも支出が収入を超えないように、人件費や水道光熱費など、一般管理費がその収入で賄えることが基本となりますので、最大限の努力をお願いいたします。

企画調整課長

コテージの稼働率を上げて

いくというのは当然ですが、黒字とするには本当に厳しい数字になるかと思っております。

議員

努力と知恵があれば出来ると思いますか。

町長

ご心配いただいている部分につきましては、これから飛雪の滝キャンプ場の運営に関わる大変重要な課題だと思っております。企業として生業が成り立っていきけるような状況を見据えたいと、とりあえずは直営でやって、そしてその状況を見ながら指定管理者を募集していけるかどうかを勘案していくことが大事だと思っております。

議員

次に、施設を利用する対象者について、ターゲットとしているところは。

住民サービス担当理事

コテージにつきましては、30代、40代の家族連れをターゲットにして、直売・集客交流拠点施設では、小中学校の体験授業や、各種団体、民間企業などの会議やレクリエーション等に、ご利用いただきたいと考えております。

議員

浅里飛雪の滝キャンプ場を外に向かって発信していくための最大の魅力は何ですか。

住民サービス担当理事

最大の魅力につきましては自然だと考えております。滝を見ながらキャンプができる。それも整備されたキャンプ場があるというのは、全国的にも大変めずらしく、最大のセールスポイントだと考えております。

議員

私も全く同感です。私は子どもから高齢の方まで滝壺で泳いだり、水遊びができるところは他にないと思います。利用客を獲得するための対策はお考えでしょうか。

住民サービス担当理事

飛雪の滝がメインとなる施設でございますので、そこを最大のセールスポイントにしたいと考えております。世界で唯一の「川の世界遺産」を水面で感じる三反帆の川船、そして日本の里百選にも選ばれた自然や歴史、文化を存分に活用させていただくとともに、食についての付加価値も高めてまいりたいと考えております。

議員

私は物産販売にも力を入れるべきだと思います。当地域の物産販売にも力を入れていけば、大きく売上に貢献すると思いますが、どうでしょうか。

住民サービス担当理事

飛雪の滝キャンプ場の直売・集客交流拠点施設の一角に売店を設け、地元の方も利用でき、商店の役割も担った物品を置く予定としております。

議員

国道から11キロメートルもある紀宝町の浅里で物販で実績を上げることは、そう簡単に期待できないと思います。相当の努力を要すると思います。物販についてはどのようなお考えでしょうか。再度お尋ねします。

住民サービス担当理事

一次産品、二次産品をオーブンに合わせて揃えるというのは大変困難なところでもございまして、すぐに用意できるものから取り揃えていきたいと思っております。

議員

浅里の産物を中心に販売し、利益を上げてくような手

法とるべきだと思います。コテージだけでお客さんを待っているだけのやり方では、私は心配します。

住民サービス担当理事

コテージの収入をメインとして考えておりますが、さらに力を入れていく必要があると考えております。

議員

地元、浅里には農産物や山菜、そして熊野川からの恵み、山からの恵みもあります。また紀宝町全体を見れば、柑橘類は1年中あります。海の物も四季折々いろいろな旬の魚があります。それらを季節ごとに整理すれば、



十分に商品が揃います。いろいろな産品を単品で加工するなり、また海の物と山の物をコラボさせて加工すれば年中販売することができそうです。私は浅里の地で、お客さんを待っているだけでは絶対に未来を見い出すことが出来ないと思います。積極的に外へ出ていくべきだと思います。

住民サービス担当理事

浅里という地域で待つというには、なかなか厳しいところでもありますので、今後そういう方向に進められたらと考えています。

議員

最後に、もう一つ提案いた

します。それは、ふるさと宅急便です。言い換えれば、飛雪の滝ふるさと宅急便です。紀宝町の物産を都会や遠く離れた地に住んでいる紀宝町出身者に、紀宝町の物産を販売します。これは、ことのほか効果があります。紀宝町出身者の人達は必ずふるさとを思う心があります。そのような人達に向かって、紀宝町の物産を提供していけば、飛雪の滝ふるさと宅急便が広がっていくものと思います。当局の見解はいかがですか。

住民サービス担当理事

飛雪の滝ふるさと宅急便というご提案をいただきました。ありがとうございます。頂戴いたしました意見なども踏まえまして、キャンプ場の売上、収入につながるよう努力できる部分があれば、やってまいりたいと考えております。

議員

浅里飛雪の滝キャンプ場が成功する秘訣は、利用客の確保と物産販売の2本柱でやっていくべきだと思います。もちろんコテージの稼働率を上げていくことは言うまでもありません。私が申し上げたこ

とは全てであるとは思いますが、浅里飛雪の滝キャンプ場の運営、経営が軌道に乗っていくためにも、もがき苦しんで一つひとつ頑張っていかなければ成功の道は見えてこないと思います。浅里飛雪の滝キャンプ場の成功を祈念しまして、私の質問を終わります。



大前 森重 議員

・獣害対策について

獣害対策

議員

平成19年に、獣害による農

林水産業にかかる被害の防止のための特別措置法が制定され、本町においても、この法に基づき、尽力をいただいておりますが、現在、法制定より10年が経過するなかで、本町の主要作物であります、水稲、柑橘類の獣害被害の現状等について伺います。まず1点目に、被害の状況や、これまで継続してきた対策について、経年的にどうかをお伺いいたします。

産業建設課参事

県と連携して行っている被害調査では、水稲の被害面積が平成27年度では242アール、平成28年度では220アールと9%減少しております。柑橘では平成27年度が125アール、平成28年度が115アールと、8%被害割合が減少し、侵入防止柵の設置や駆逐用煙火によるサルの追払い・罠等の設置等において、猟友会と連携した有害捕獲等への対策による効果が発揮されていると考えております。

議員

電気柵等の設置を行ったところは減少する。これは当然のことです。事業の費

用対効果から見ても、当然そういう結果が出るであろうというのには認識をしているところでもあります。しかし農家の方からの被害報告等については、依然として多い状況が継続していると理解しますが、いかがですか。

産業建設課参事

議員ご指摘のとおり、里山の集落まで獣害の報告を受けており、引き続き対策を行っていく必要があると考えております。

議員

2点目に、国が各都道府県からの被害報告を聴取しているなかで、イノシシやニホンザル、ニホンシカが鳥獣被害の約9割を占めている結果となっているようにございます。本町でも、この3類が被害を及ぼす獣類であることから、生息数の状況について伺います。

産業建設課参事

生息数については、平成26年度に三重県と連携をして調査した結果、サルは2つの群れが現在確認されている状況であります。また、シカにつきましては県全体で、平成25年度で6万3192頭、平成

26年度で6万2161頭、平成27年度では6万1479頭と減少している傾向にあります。またイノシシの推定個体数については、平成22年度をピークに、その後は減少傾向にあるということでございます。

議員

生息数の調査においては、専門的な方の指導や調査委託を必要と考えますが、措置法の5条では、都道府県の知事は市町村に対し、助言や必要な援助に努めると規定されておりますことから県への相談を提案します。また被害防止対策としては、獣類の状態を掴み、防止計画に反映させることが重要であると考えますので、調査の要望をしておきます。次に被害を及ぼす獣類に対して、捕獲等で個体数の調整が必要と考えますが、町の考えは。

産業建設課参事

議員ご指摘のとおり、有害鳥獣の個体数の減少が最も有効な手段だと考えております。

議員

獣類の捕獲等については、猟友会のご協力の中で進めて

いただいている状況ですが、指導者をはじめ、鳥獣の捕獲等の担い手の減少や高齢化が言われております。本町の狩猟免許所持者の人数、また年齢構成について伺います。

産業建設課参事

構成としましては、20代が1名、30代が9名、40代が9名、50代が7名、60代が24名、70代が22名、80代が2名の合計74名で、平均年齢が58歳となっております。また狩猟登録をしている方は現在55名で、平均年齢が64歳と高齢化しておりますため、重要な課題であると考えております。

議員

狩猟者の状況については全国的な問題であると理解します。法の第9条では捕獲防護柵の設置や被害防止計画に基づく施策を実施するため、鳥獣被害対策実施隊を設けることが出来るとあるが、本町の実施隊の状況は。

産業建設課参事

職員が罾等の資格を取得し、実施隊の運用を図っております。現在15名で、毎年2名ずつ免許の取得に向けて取り組んでおります。

議員

実施隊については、狩猟経験者の方を検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

産業建設課参事

箱罾等の設置の際には、地元の猟友会の方々の指導を仰ぎながら設置をしている状況であります。

議員

獣類を相手にするのは危険が伴いますので、猟友会等の経験豊かな方々の協力を得て、今後進めていただきたいと思っています。最後に、今後の獣害対策について伺います。

産業建設課参事

国の交付金を活用し、防止柵の設置や箱罾の購入、獣害研修会の開催等を行い、また町単独事業では、国の交付金対象外の農地に対して、侵入防止柵資材の補助や駆逐用煙火の資材補助、新規銃器購入への補助、所持許可に係る経費の補助、有害狩猟免状の更新費用の補助等を実施しております。平成30年度も引き続き、支援を継続して行きたいと考えております。

議員

私の地域の中山間部では柑



橘類の生産が主流でございます。特に生産の多くを占めているのが温州ミカンでございます。近年、大変高い評価を頂いております。これは生産農家の皆様がこれまで切磋琢磨し、品質向上、またブランド化に向け、取り組んできた成果であると思っています。ただ1年を通じて栽培してきた柑橘類が収穫時において獣類により多くの被害を受けております。本年2月には、井田区より当局に対し、狩猟を含めた被害対策強化の要望がなされたところです。この状況を強く受け止めていただき、農家が安心して農作業に専念できるよう、さらに強力で被害防止対策に取り組んでいただくようお願いいたします。



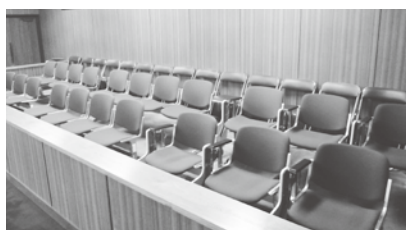
次回 平成30年6月19日より開催予定

議会を傍聴してみませんか？

紀宝町をより良い町にするための議論を交わしています。



議場の様子



議場傍聴席。40席用意しています。



本議会では、町民の皆さまの生活に関わる重要な問題について、熱い議論が交わされておりあります。

本議会は議事の公開の原則により、会議中、どなたでも傍聴できますので、お気軽にお越しください。
町政への理解を深めていただくためにも、皆さまの傍聴をお待ちしております。

◆本議会開催場所

紀宝町役場 3階・議場

◆開催予定日時

平成30年6月19日（火）
午前9時より

◆傍聴の手続き

- ① 紀宝町役場庁舎3階の議会事務局で受付を行ってください。
先着順にて受付しています。
※傍聴席は40席です。
- ② 議場の入退室は、会議中でも自由にできます。

◆注意事項

- ① 言論に対して拍手、その他の方法により可否を表明しないでください。
- ② 飲食または喫煙をしないでください。
- ③ 携帯電話の電源をお切りください。
- ④ 写真、ビデオで撮影したり、録音しないでください。

◆お問い合わせ

紀宝町議会事務局までご連絡ください。
☎ 0735・33・0342

次回定例会の予定

6月19日（火）開会予定です。
傍聴は議会事務局で受付ています。

議会生中継について

公共施設5ヶ所のロビー等において、町議会本会議の模様を生中継していますので、議会日程をご確認のうえ、ぜひご覧ください。

- ① 役場本庁舎
 - ② 生涯学習センターまなびの郷
 - ③ 福祉センター（鶴殿）
 - ④ 保健センター（神内）
 - ⑤ 相野谷診療所
- ※放映時間については、当該施設開館時間内となりますので、ご了承ください。

インターネット録画中継について

町議会では開かれた議会を目指して、平成23年6月定例会分からインターネットによる録画中継を実施しております。映像をご覧頂くには、
◎紀宝町ホームページ↓「町議会情報」↓
「インターネット議会中継」をクリック

可決された議案（3月）

- 教育長の任命について
- 教育委員会委員の任命について
- 公平委員会委員の選任について
- 監査委員の選任について
- 固定資産評価審査委員会委員の選任について
- 紀宝町農業委員会委員及び農地利用最適化推進委員の定数に関する条例の制定について
- 紀宝町農業委員会委員の過半数を認定農業者等又はこれらに準ずる者とするに同意について
- 紀宝町役場の位置を定める条例の一部改正について
- 紀宝町公告式条例の一部改正について
- 紀宝町消防団員等公務災害補償条例の一部改正について
- 紀宝町飛雪の滝キャンプ場条例の一部改正について
- 紀宝町国民健康保険条例の一部改正について
- 紀宝町国民健康保険条例の一部改正について
- 紀宝町後期高齢者医療に関する条例の一部改正について
- 工事請負契約の変更（地方創生拠点整備交付金事業バンガロー新築工事）について
- 工事請負契約の変更（地方創生拠点整備交付金事業直売・集客交流拠点施設整備工事）について
- 指定管理者の指定について（20件）
- 平成29年度一般会計補正予算（第7号）
- 平成29年度特別会計補正予算（5会計）
- 平成30年度一般会計予算
- 平成30年度特別会計予算（6会計）
- 紀南環境衛生施設事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び紀南環境衛生施設事務組合規約の変更について

編集後記

3月中旬、テレビ、新聞、月刊誌等で大きく報道された新種桜「クマノザクラ」の発見は103年ぶりとなりました。一番の違いは、開花時期です。紀伊半島南部、熊野地方では3月上旬～下旬、クマノザクラが染井吉野より先に咲き、そしてヤマザクラは、それよりも遅い4月下旬～中旬頃に咲くようです。

【熊野のヤマザクラは二度咲くと】思い込んでいた地元住民も多くいたと聞いています。毎年、繰り返しヤマザクラは二度咲く光景の謎が、今回の新種発見で解明できたようにも思います。

さて、飛雪の滝キャンプ場周辺で整備されていたコテージ、直売・集客交流拠点施設の愛称が決まりました。コテージは「滝の宿」、同施設は「飛雪の里」の名称となり、年間を通じ、自然と触れあいながら幾つかの体験ができ、子どもから大人まで楽しめる施設を目指したいと思います。（文責 的場）

「議会だより」（45号）

編集委員 的場 孝一

莊司 健

榎本 健治